

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年1月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300658号
法人名	医療法人 昌成会
事業所名	グループホーム和音
所在地	鹿屋市大浦町14169-17 (電話) 0994-41-3778
自己評価作成日	平成24年1月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・施設は広々とした山間の落ち着いた環境にあり四季の風情を日々の介護に取り入れられる。利用者の昔馴染みの味覚の楽しみつわぶき等も毎年楽しんでいる。更に畑を造成し、季節の野菜を無農薬、新鮮野菜などで食の安全に努めている。
- ・医療法人の運営している施設であり、協力病院として月2回の訪診も導入し利用者の健康管理やリハビリを法人理事長の指示にて通院介助しているが必要時は専門医紹介の機会も得られるので安心して暮らせる。
- ・施設は集落の中にあり家並みの中を往来するので寂しすぎず安心できる環境にある。
- ・近隣住民の方々からは季節の野菜などを持参くださったり、3B体操の講師(近所)を月1回お願いし、回覧板も持ち回りで交流に努めている。
- ・法人のデイケア送迎車を拝借出来るので戸外活動が利用者全員そろって参加できる。
- ・毎日の日課として10:30~1時間程度リハ体操やレクリエーションにてレベル低下を防止、午後は、趣味活動などにて、その人らしく生活出来る様支援している。
- ・踊、歌、三味線などの特技がある職員がいて日々の活動や行事に活かす事ができる
- ・水無月(6月)は、紫陽花が庭園いっぱい咲き季節を教えてくれる。他の施設との交流の場となっている。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは自然豊かな場所に位置し、広々とした芝生の庭がある開放的な建物である。環境美化や家庭菜園にも力を入れており、家庭菜園の食材をふんだんに使った食事を提供している。母体医療機関との連携が緊密で、入居者や家族からの信頼も厚い。管理者や職員は自己評価を現状把握の機会としてとらえ、さらなるサービスの質向上に向け熱意をもって取り組んでいる。日常生活の中で職員は笑顔で利用者や接し、朝、昼、夕のあいさつ、おやすみなさいのスローガンを掲げ、優しい声掛けや関わりを大事にしながら利用者や接している。離職が少なく、開設当初からの職員や利用者もいることから、なじみの関係とコミュニケーションが蜜に図られていることが伺われる。2ユニットが協力し合いながら、全職員が全利用者を把握し、支援し、そして毎回充実した内容の運営推進会議を行っており、前回の課題への対応状況報告や事例発表、ヒヤリハット事例、利用者の満足度調査結果などを報告している。認知症勉強会も行っており、それぞれの会で、参加者の知識向上につながり活発な意見が出されている。議事録も全家族に送付している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は目のつくところに掲示し、理念を確認しながら取り組み、毎朝復唱を行っている。	毎朝理念を唱和し、ケアに反映させている。利用者も一緒に言葉にする光景も見られる。家族アンケートの回答からも理念に沿ったケア実践ができていたことが伺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで行事等の情報を得たり、運営推進会議に町内会長及び町役員の方々の出席を要請し、様々な意見交換を行っている。	管理者は町内の集会に出席し、ホームの敬老会には地域住民の参加を得ている。買い物も地域の商店を利用し、また、近隣の梅の収穫を手伝い、お礼に梅をいただいたり相互関係ができています。毎月、近隣のボランティアによる体操の指導や、中・高校生の職場体験の受け入れ、幼稚園児との交流もできています。市の文化祭にも利用者の作品を出品するなど交流に力を入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設機能を活かして解放の準備はしているが、活かしきれていない。一度近隣住民の方々と一緒に消防訓練を行い、消火器の取り扱いや火災装置器の説明を消防署員より受けた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回運営推進会議を開催し、運営状況、活動報告を説明、また和音における様々な取り組みを、職員全体で話し合い報告している。会議で出た質問や要望に適切に対応し取り組んでいる。	行政、町内会長、民生委員、消防団長、家族、利用者、職員参加のもと、内容の充実した会議がなされている。ホームの状況報告や事例発表、利用者への満足度調査結果報告、ヒヤリハット事例報告や前回出された課題に対する報告などを行っている。年2回の家族会のうち、1回は避難訓練に絡ませて開催し、意見を貰っている。	

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで町内会長、民生委員と話をする機会を活かし、調査報告及び事業運営の報告など施設として積極的に提出し連携強化を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、事業所の実情を報告、相談している。また、生活保護受給の入居者もおり福祉事務所との連携も密にとっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回安全管理委員会及び身体拘束委員会を開催し、入居者様への安全及び身体拘束防止のついて話し合い、学んでいる。また、職員の日頃の言動にも注意し、入居者様の尊厳を大切にしている。	重要事項説明書にも、身体拘束をしないケアの実践を明記し、毎月のミーティング時に委員会を開催して職員全員に意識付けを行い、言葉による虐待も含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。非身体拘束三原則もホーム内に掲示している。日中は鍵をかけない安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月1回安全管理委員会及び身体拘束委員会を開催し、入居者様への安全及び虐待防止のついて話し合い、学んでいる。また、職員の日頃の言動にも注意し、入居者様の尊厳を大切にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び青年後見制度について、外部研修で学ぶ機会がなかった。		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分に時間をかけ説明を行っている。また契約後も疑問がある場合等も対応し、常に理解と納得ができる様にし、不安や不満の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を毎年2回実施し、運営状況の説明や、第三者機関への相談窓口等の説明を行っている。玄関には意見箱を設置し、いつでもご意見を聞けるように準備している。面会時なども極力意見を聞くようにし、反映できるように努めている。	敬老会や家族会を行い、意見交換や話し合いの機会を持っている。重要事項説明書に第三者委員を明記し、苦情などを前向きに受け止めて活かしていく姿勢がある。利用者の様子報告、ホーム便り、運営推進会議録も必ず送付している。利用者には3ヵ月毎に満足度調査を行い、集計を家族に報告してサービスの質向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回部署会を開催し、職員からの意見を反映している。それを元に計画作成、改善事項を確認している。また、毎月1回ミーティングを実施し、施設長との意見交換の場も作り、だされた意見を反映している。	毎月の会議で行事内容や連絡事項の話し合いをもち、職員の提案を運営に反映させている。運営推進会議にも全職員が参加できる体制をとっている。離職が少なく、良好な職場環境作りができています。資格取得支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月1回運営会議を開き、施設長に職員全体の仕事への取組みを報告している。また親睦を図るため、飲食等の企画をし、職場以外での付き合いを実施し、日頃のストレスを発散できるように工夫をしている。		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護技術や知識をつけ自信を持って仕事ができる様に、全職員に外部研修の参加を勧めたり、毎月1回勉強会を開き、内部研修として全職員に学んでもらう機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿屋市西部地区包括支援センターが管理する地域の施設との交流や勉強会に参加し、テーマに沿った勉強会や仕事上での困難なことや疑問に思うことを話し合い、お互いに様々な意見交換をしている。</p>		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から面接を行い、本人の困っていること、不安なこと、要望など細かいことを聴き、入所されてすぐに馴染めるような環境づくりに努めている。また一人の時間を少なくし、なるべく話を聴く時間をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望は、入居者様のことがほとんどであり、疑問や不安を抱かれないように、面会時や状態変化時に個別記録などを掲示し、適切に状態を説明し、信頼をしてもらえるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を理解した上で、必要なら行政機関や他施設を紹介することもある。できる限りの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様からは日々、職員も勉強になるような話などを多く聞かせてもらっている。できることはしてもらい、できないことは一緒に行う、または本人の目の前で行うなど信頼関係ができる様に仕事に努めている。		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	無理のない程度に面会をお願いをし、どの家族も最低でも2ヶ月に1回は来てくださる。面会時は家族との時間を設け、居室でゆっくりするなど配慮している。また手紙や電話も受け付けていることを伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ協力要請し、馴染みの場所や実家などへの外出を勧めている。知人や兄弟の方が面会に来られることもある。	利用者への満足度調査で、思いを聞き出して家族に協力要請をしている。自宅訪問やリハビリ通院、デイサービスにくる知人、兄弟姉妹、家族とのふれあいを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が仲良くしていけるように、職員が中に入りみんななで物事を進めていけるような業務をしている。午前中は毎日ほぼ全員の方が参加しラジオ体操、レクリエーションなどを行い共有の時間を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引く関係で退居された方等は、退院後も入院施設へ面会に行くなどして、安易に関係を断ち切らないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を話や行動、または昔の出来事など様々な視点から感じ取り、何を欲しているのか把握し実行していけるよう取り組んでいる。	満足度調査で利用者の思いや希望を聞き出し、全職員で話し合っ実現に向け取り組んでいる。意思表示の困難な利用者には声掛けや、行動、表情などで本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のこれまでどのように暮らしてきたのか、どのような考えで生活してきたのかを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々人の能力を把握し、出来ることへの参加を勧め、達成感を感じてもらえるように努めている。また常に心身の状態を把握し、健康維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティング時に、施設長を含め職員で入居者様の課題、ケアについて話し合い今後の入居者様の生活が向上していけるように計画に取り入れている。また家族とも面会時などに話をし、意見をもらい反映していけるように努めている。	本人、家族の希望や意向を取り入れ、本人本意の介護計画を作成している。職員は、サービス内容についてケアプランチェック表項目を毎日点検し、気づきなどを出し合い見直しに活かしている。	

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録や業務日誌に日々の様子をしっかりと記載するように話をし、毎朝の朝礼や申し送り帳を活用し情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人及び家族の要望に応じて話し合いを設け、外出や外泊のアドバイスや病院受診時の情報提供や紹介状の提供を行い、本人及び家族への負担のないように施設機能を活かしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>入居者様と公園にドライブに出かけるなどし、地域の持っている資源の活用にも努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との連携は常に行い入居者様の状態報告を行い、緊急時の対応等配慮してもらっている。毎月2回の訪問診療を実施している。</p>	<p>医療連携、24時間体制が整っている。訪問看護ステーションとの契約により毎週看護師の訪問がある。家族が通院介助をする場合には、情報提供表と主治医の医師紹介状を持参している。</p>	

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療管理が必要な利用者には、看護職員の意見を参考にし、全身状態の観察や管理に活かしている。毎週1回の訪問看護を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時より担当ソーシャルワーカーと連絡を取り合い、状態を把握し早期退院に向けて協議を繰り返し実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居当時から家族に説明を行っている。重度化に合わせ情報を共有し、対応方法を検討する。また役割を明確にし、誰が何をするのかあるいは本人は何ができるのかを見極めた上で、主治医の指導の元、利用者の生命と安全を確保することを最優先し介護内容を検討している。	早い段階から家族との話し合いをもっている。かかりつけ医の指示のもとに家族と話し合い、ホームでできる最大限の支援を確認している。また看取りの実例もある。	看取りについて全職員で話し合い、ホームでできる最大限の支援を明文化するような今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急コンテストに参加した職員により実技などを行い、全職員で知識を共有している。		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年2回避難誘導訓練を実施している。また、災害時の非難について運営推進会議等で話し合いをし、地域の協力体制も整っている。</p>	<p>土砂災害危険区域に位置することから、地区での説明会に管理者が出かけ住民に声掛けをし、協力や支援の意識付けを行っている。避難訓練以外にも、夜間想定自主訓練を行っている。スプリンクラーも設置済みで備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルを作成し、個人情報の保護に努めている。職員に対しては日頃より言動に注意し、個人を尊重するように指導している。また勉強会でも取り上げ意識を高めている。	朝の挨拶の「今日も一日元気に過しましょう」に始まり、夕の挨拶での「今日も良い一日を過ごせましたか」による優しい声掛け、穏やかな接し方で利用者の人格を尊重した対応ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し、納得のいく生活ができるように支援している。突出した要望や一方的な考え方の可能性も勘案した上で、納得できるように努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースを尊重し、無理強いやストレスがたまらないように支援している。また、本人の希望がある場合はできる限り努力をし実現できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の要望に合わせて身だしなみを整えている。身だしなみに興味を持たない方に対しては、家族の方と話をし、昔好きだった衣類等を持参してもらったりし、整容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にも食事の下ごしらえや味見をしてもらい、協働作業として毎日実施している。昼食は入居者様、職員一緒に摂っている。また、食前にメニュー紹介をし食事への興味を持ってもらえるように努めている。	利用者と共に家庭菜園に励み、収穫を楽しんでいる。献立メニューも豊富で、食材をふんだんに使った料理を提供している。利用者も調理に参加し生き生きとした表情が見られる。弁当持参の外出や外食、ホーム内にミニ喫茶店を開くなど楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康状態や体重変動を見極め栄養のバランス、食事量、食事形態(普通食、刻み食、ミキサー食)などを考慮し食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来ない方は、職員が口腔ケアを実施している。一人で出来る方は本人にしてもらうように勧めている。時々職員が義歯清掃を実施し、清潔を保つよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々人の排泄ペースに合わせて支援している。排泄要求がない方は、時間ごとの誘導を実施している。排泄のサインを見落とさないように注意しながら対応を行っている。	日中は声掛け誘導で全利用者、トイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレ使用者もいる。自立排尿の利用者には継続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように水分、運動、食事などに気をつけている。それでも出にくい方は、それでも出にくい方に対しては、主治医に相談し必要なら緩下剤にてコントロールを行っている。		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎月・水・金10:00～17:30に実施している。入浴日を設定しているが、要望があればすぐにでも対応できるようにしている。	入浴は基本的には週3回であるが、身体状況や個々の希望に応じて支援を行っている。入浴をいやがる利用者に対しては、なじみの関係を活かし、声掛けの工夫で支援している。また、足湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の入眠時間に合わせて誘導を行っている。また、夜間安眠していただくために、日中はレクリエーションや趣味活動を勧めメリハリのある生活を送ってもらえるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の説明を行い、飲み忘れや誤薬がないように注意している。処方箋はファイルしており、いつでも確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションや共同作業による生きがい作りの支援をしている。毎月の行事、趣味活動、手作り食品などを提供し刺激のある毎日を過ごせるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族への墓参りや実家への帰省などの協力を依頼したり、夏祭りや近くの公園などにも出かけたりしている。希望があれば検討し、実現できるように努力している。	日常的に、四季を感じるができるホーム内周辺の散歩を楽しんでいる。病院受診の帰りには、自宅周辺までドライブすることもある。毎月、外出行事を計画し、イチゴ狩りやバラ園見学、みかん狩りなど楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭は個人で持たず施設側ですべて管理している。必要時は預かり金から支出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望がある方には電話や手紙を出せるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに花を変えたり聴きなれた音楽を流したりと工夫している。趣味活動で作成されたちぎり絵や、書道などを張ったりしている。</p>	<p>天井が高く採光も良い。また、リビングから直接テラスに出られる。2ユニットが棟続きになっているので、合同レクリエーションも実施可能であり、より開放感の感じられる空間である。生活感や季節感を取り入れたリビングで、利用者は1日の大半を居心地よく過している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人それぞれ自分の居場所があるため、その場所を無くさないように配慮している。ソファの位置を考慮し、入居者様同士で集える空間なども提供している。</p>		

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、本人の使い勝手の良いものを持ち込んだり、使っていたもの、家族の写真などを飾ったり、思い思いに部屋の装飾をし過ぎしやすいように配慮している。	回転椅子、小物、洋服、家族の写真など、利用者の個性が伺える居室になっている。また、個々の身体状況に応じて畳やフローリング、ベットや布団敷きなど対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境を整理し、怪我や事故を起こさないように配慮している。廊下、各居室、トイレ、浴室には手すりを設置している。個々人に合わせ介助、見守りなどを考慮し、なるべく自立できるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム和音 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない